

GP通信

発行
大垣女子短期大学
GP専門部会



イメージキャラクター
ぶっぶあちゃん



2010.5.13 子育てサロン「ぶっぶあ」 利用者2000組達成!!

～「ぶっぶあ」に寄せる思いを集めてみました～

社会への貢献

大垣女子短期大学の教育方針の一つは社会に貢献できる教育です。子育てサロン「ぶっぶあ」を開設以来、2000組もの親子に利用していただけたことは、子育てサロンの取り組みが地域の皆様に愛され、理解していただけて子育て支援にも貢献できた結果と言えると思います。今後、これをひとつの通過点として、本学が持つ教育の特色を生かした子育て支援の取り組みをさらに進めていきたいと思っております。

役田 亨
子育てサロン運営委員長



学びの実践の場



「ぶっぶあ」のスタートからもうすぐ2年、「学びの実践の場が学内にある」という学生にとって恵まれた環境が本学にも定着してきました。4学科の学生が日々の授業でそれぞれに学んだ知識や技能を子どもたちとのかかわりの中でさらに深め、新たな目標を持って次の授業に臨んだ後、再び子どもたちの前に立つ。この有機的な教育の場を与えてくださったぶっぶあ利用者とスタッフの方々に深く感謝いたします。

教育センターGP専門部会長
茂木 七香

たくさんの方の出会いに ありがとうございます

2000組!こんなにたくさんの方の皆さんが「ぶっぶあ」に来てくださって、ありがとうございます。

体操や手遊びをしたり、絵本を読んだり、工作をしたり、もちろんお友達と一緒に遊んだり。「ぶっぶあ」には、いろいろな物や人との出会いがあります。そんな中で、子どもたちのさまざまな表情に出会えます。大声で泣く子、不安げに見つめる子、笑ったり、やんちゃしたり、けんかしたり、どれもこれも、まるごと子どもたちの元気な姿です。そんな元気な子どもたちと、一生懸命頑張っているママたちに出会えることは、私にとってとてもうれしいことです。「ぶっぶあ」を利用してくださる皆さんにも、少しでもだけでも、誰かに、「出会えてよかった」と思っていただけのように思っています。

子育てサロンコーディネーター
日比 ひとみ

学生の声

子育て支援のイベントは、保育実習とは全く違うものだと感じます。授業の一環として捉える実習、自分の言動が直接関係するイベントくらいに感じます。いつでも即興で対応しなければならぬことが多いので、出し物というか引出をたくさん準備しておかなければなりません。日頃から子どもたちに対する技能を磨くこと、子どもたちが好きな話題をつかむことが大切だと考えています。

幼児教育科
3年生 神野 恵

子どもが苦手だったのでちゃんとふれあえるかな不安でしたが、みんなとても元気で明るいです。思ったよりあったという間に時間が過ぎて行きました。ランチタイムコンサートではアンパンマンを演奏しました。騒いでいた子どもたちもすっかりと耳を傾けてくれました。あまり長い曲だと子どもたちの集中力が続かず途中で遊びだしてしまうので短めのプログラム、曲の長さがよいと思いました。

音楽総合科音楽療法コース
2年生 水川 藍子

利用者の声

広くて気持ちよく過ごせます。先生や学生さんたちの育児支援をとてもうれしく思っています。また、学生さんのイベントもあって楽しいし、学食も魅力です。こんなサロンは他にはないので開催日が増えるとうれしく思っています。

千先さん・鈴木さん・桐山さん
大垣市在住

